

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471100236		
法人名	医療法人 茜会		
事業所名	グループホーム みやき		
所在地	三重県熊野市久生屋町541		
自己評価作成日	平成 27 年 10 月 15 日	評価結果市町提出日	平成 27年 12月 24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku_ip/24/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2471100236-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27 年 11 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

どの居室からも四季を感じる庭を眺めることができ、時期の果実や野菜を収穫して味わう楽しみがあり家庭的な雰囲気作りを大切に、ゆっくり安心して楽しみのある日常生活を送って頂けるように支援しています。
 又御家族や知人の面会時など気兼ねなくゆっくりくつろいで頂けるように心掛けています。
 音楽療法士を迎え懐かしい歌や食べ物、昔ながらの地元の行事、生活の話などで回想法による心のマッサージ、脳の活性化を図っています。
 近くに世界遺産もあり時々、外出や外食なども楽しんでます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな住宅地にあり、各居室より庭園が見渡され四季を感じ生活ができる。外部者の慰問や事業所の秋祭り、日々の散歩など地域との交流が多く、利用者は、顔見知りの地域の人たちに見守られている環境の中ある。利用者の希望に沿った外出・外食の機会も多く、理念である「あわてず、ゆっくり、のんびりと」のケア実践を一人ひとりが提供され、個別ケアが充実している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あわてず、ゆっくり、のんびりと」の理念を職員間で共有し、家族的な共同生活を志し実践に繋げている。	「あわてず、ゆっくり、のんびりと」の理念は、リビングや廊下に掲示され、利用者のペースに合わせ常にケアを行い、スタッフ同士が声を掛け合い理念を共有し、協力し合い、理念に沿ったケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、事業所の秋祭りや子供達の慰問の際には地域の人や老人会にも呼びかけし、日々の散歩や近所のお店に見守りをお願いしたりと交流を持っている。	地域の人々とは、日々の散歩や事業所主催の秋祭り、地域のイベント参加、事業所への慰問(ソーラン・ヒップポップ、太鼓等)で、家族的なホームの関係が出来ており、見守り協力が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	無断外出する利用者様がお隣近所の人々、区長、民生委員の方々に支援依頼している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	熊野市健康長寿課、社協久生屋支部長、民生委員、久生屋地域代表の方、家族代表の方々に参加して頂き2ヶ月に1回開催。昼食試食会なども行いサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催、家族代表・地域代表・民生委員・包括センター職員・社協職員が参加し、事業所の行事の話を中心に、地域の方の介護相談に乗ったり、家族の声を聴いたり、研修情報の提供を受けたりし、サービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進委員に包括支援センターの方に参加して頂き、介護センターみやきとして、相談事や事務処理等、健康長寿課とは協力関係を築くよう取り組んでいる。	本年度は健康長寿課とは、スプリンクラーの設置のため連絡を密にした。包括支援センターとは、運営面や事務処理等で常に協力関係を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の鍵は自由に外に出られるように開放し、全職員で言葉の拘束、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	開放感のある施設で、中庭や施設外の出入りも自由である。利用者の行動を職員がよく観察し抑制せず、寄り添うように接し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での虐待、高齢者の虐待を防ぐなどの研修報告を学び、入浴事などにもチェックを行い見逃しのないように注意を払い防止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用の機会がなくていけない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に説明を行い、不安や疑問な点には十分な説明を行なっている。解約や改定の際にも事前に説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面会時に日頃の様子をお話し意見や要望をお伺いし、どんなことでも話して頂ける関係作りに努めている。又、運営推進委員に家族の方も参加して頂き出された意見や、要望は質の向上に活かしている。	面会時に家族とのコミュニケーションをとり、要望や意見を聞いており、遠方の方は電話で情報交換を行っている。定期的には、毎月、写真入りの近況報告をしている。また、運営推進会議時に家族の意見・要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議や毎朝のミーティング時に出た意見、提案を聴き運営に反映されている。	日々のミーティングや毎月のカンファレンスで職員の意見を聞いている。職員間の話し合いや、代表者との話し合う機会も多く、今年度は、職員の希望で居室センサーを2カ所に設置した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件の整備に心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会が少ないが、働きながら、トレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設を訪問し同業者と交流、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に見学してもらったり事前に御自宅や施設に訪問し本人様や家族様から要望等をお聞きし安心して暮らして頂けるよう、サービスを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に御家族と連携を取り不安、要望等の話し合いを行い本人様のご様子、生活などを拝見させて頂き良い関係作りを努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャー、介護職員でカンファレンスを行い何が必要かを見極めサービスに導入している。他のサービスは利用していないが併設しているデイサービスに遊びに行ったりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の苦にならない出来ることを考え、掃除等の日常的な事や買い物、裁縫、洗濯物たたみ等の仕事を共にして頂き、暮らしのパートナーの関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月写真などを付け手紙による状況報告を行い変化時などは電話で報告し話し合いを行う。又家族から電話を頂き本人と話をして頂いたり絆も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別に地元の祭りや馴染みの場所に出掛けている。買い物等で顔馴染みに会ったり馴染みの人や場所との関係維持に努めている。	馴染みのスーパーや美容院へ出かけたり、地元のイベントへの参加をしている。利用者の自宅周辺など個々の馴染みの場所への外出に対応し、馴染みの人に会う機会が持てるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく参加出来るレクリエーションを増やし孤立を防ぎ、利用者同士が関わり合い支え合えるよう職員が配慮し、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退所された方などは、近くに行った時にはお見舞いに寄り、御家族とは、買い物などでお会いすると声を掛け合い相談にのったり、近くに来た時には当施設に顔を出してくれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中、遠慮なく話せる関係性、言い出しやすい雰囲気作りの中、職員全員で希望や意向に添えるよう努めている。	日々の会話の中で思いを聴き取り、その情報を職員間で申し送りやミーティングで共有し、思いに添えるよう努めている。	前年度の目標であった個別のノートを用い、スタッフ間で情報を共有し、一人ひとりの思い・意向の把握を、さらに深めていくことに期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族、ケアマネージャー等から、これまでの生活歴、経過経緯等をお聞きし、入居後は家族等の面会時に色々な話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態にあった支援を行い過剰介護しないように心掛けている。毎日のバイタルチェック、機能訓練を行い変化のある時には嘱託医に相談し健康管理を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝のミーティング時に変化があれば随時話し合い、月に一度、職員全員で意見を出しあい3ヶ月毎に見直し、本人、家族の意向に沿った現況課題を介護計画に反映している。	入居時、職員全員がケアカンファレンスに参加し、介護計画作成担当者と共に介護計画を作成している。利用者担当者は責任をもってモニタリングし、変化があれば家族の意見も含め介護計画担当者と共にミーティングを開いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日・夜勤の状態を記録し情報や注意点など申し送りノートに書き、朝のミーティング等で情報の共有を行い援助や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状態に応じた支援を行い、食事の時間、形態の変化、個別に外出、他様々な面で柔軟に対応が必要で実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の見守り、園児の来訪、外部より講師を招き週に1度の音楽療法、買い物、外出など地域資源を把握し、外部刺激も受けながら、楽しみのある暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科嘱託医とホーム看護師は連携を密に取り、往診、かかりつけ医への受診支援等、利用者一人ひとりが適切な医療を受けられるよう支援している。	2～3ヶ月に1回、内科嘱託医の往診があり、専門病院の場合は、処方日受診をしている。かかりつけ医希望も対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師が常勤している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の地域連携室と相談したり、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	要介護4になった時点又は医療行為が生じた時に今後について話し合っている。本人、家族の希望を聞き、事業所として出来ること出来ないことを伝え終末期に向けてその人らしく過ごすことが出来るよう支援している。本年度は見取りを行なった。	今年度、1例の看取りを経験した。本人・家族の希望を聞き、終末期に向けてその人らしく過ごすことができるよう支援している。看護師であるホーム長を中心に今後の支援方針を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成し、皆が見える所に貼っている。常に看護師に連絡が付く状態で普段から急変、応急処置の話をしており、落ち着いて行動できる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定、昼間の訓練と年2回熊野消防の協力を得て防災訓練を行なっている。災害時の食糧、飲料水、日用品の備蓄、生活用水確保の井戸、ガス発電機の使用方法なども身に付けている。	年2回の訓練を行っており、夜間想定訓練も行った。推進委員の方々や、消防団員・消防署の協力を得て行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格や誇りを尊重する事を心掛け、気持ちに寄り添うよう支援している。	管理者は、職員一人ひとりの声かけや対応について、人格や誇りを尊重することを大切にする事を指導し、利用者は「友達ではない」を心がけ、接遇指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を遠慮なく言えるように関わりを多く持っている。自己決定の出来ない方には思いを汲み取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は各自、起床された時間に行い、昼、夕食も一応、時間に声掛けは行うが本人の希望により時間をずらす事もある。日常の過ごし方や就寝時間は各自希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室がある方は送迎し、自己決定出来る方には自身で、出来ない方には、その人らしい服装を選んでいる。毛染めは職員が行いカットは美容師に来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や季節の物、地元のものを取り入れた献立を立て、職員も一緒に楽しみのある食卓になるよう努めている。時々外食なども楽しんでいる。	味付けに気を配り、その人の好みに合った味付けをしている。おやつ作りを利用者も参加したり、季節メニュー・誕生日メニューもあり、職員も一緒に食卓で会話しながら楽しく食事をしている。外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を毎日チェックし、水分摂取が苦手な方には、ゼリー状にしたり食事を工夫したりと一人ひとりの状態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを行なっている。自身でできない方は職員が手伝うがいや口腔ケアを行なっている。就寝時には義歯を洗浄剤につけ清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はほぼトイレでの排泄援助を行なっている。さりげなく誘導し、トイレでの排泄を支援している。	個々の排泄パターンを把握し、日中はトイレ誘導をさりげなくしている。夜間は、オムツ2名、ポータブル1名、トイレ誘導5名。排便は、チェック表にてコントロールしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、食物繊維の多いもの、水分などしっかり摂取して貰えるよう声掛けし、排便チェック表を付け個々に対応している。レクの中で腹部マッサージなども取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決め週に2～3回入浴。個々の都合で入浴できない時は日を替えて対応している。庭で取れた柚子や菖蒲、入浴剤など利用し入浴を楽しめ、リラックスできるよう工夫している。	週2～3回午後に入浴している。浴室の隣がトイレなので、入浴を嫌がる人にはトイレ後入浴に向かうよう声を掛けたり、声掛けの職員を交代したりして支援している。又、入浴剤も工夫し、温泉気分を味わってもらったりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状態に合わせて、休息や安静を保って頂くようにしている。寒い時期には事前に布団を温めるなどし、寝付きが良いように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を個々のファイルに綴りすぐに見られるようにしている。手渡しし服薬確認しており、状態に変化のある時は嘱託医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の掃除や洗濯などお手伝い頂いたり、手芸の得意の方には雑巾を縫って頂いたり、音楽の好きな方には週1回の音楽療法に参加して頂き、季節のお出かけを計画したりと楽しみのある生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別にドライブや地元のお祭見学、四季のお出かけなども積極的に支援している。本年度は勝浦観光を計画し紀伊の紀の松島めぐりを実行。	月2～3回ドライブを含め車で出かけている。近辺の散歩は日常的にしており、個別の希望の買い物や外出場所にはドライブで対応している。四季のお出かけ時等には、家族に外出の同伴を呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で財布を待たれてる方は一緒に買い物に行かれた時などお支払いして戴いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は居室からご姉妹や知人と連絡が取れ、別の方は年賀状、お礼状を書いて家族や知人とやり取りできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖かみを出せるよう各居室の入り口に名前を書き、のれんを付け、戸を開けてもプライバシーが守れ、廊下でもゆったりできるよう、お出かけや行事の写真を飾りし季節を感じることが出来るように工夫している。	お出かけ行事の写真がリビング・廊下に沢山貼られ、季節感が感じられる。写真がコミュニケーションツールとなり、職員や外部者との会話が弾む工夫がされている。オープンキッチンで食卓からの風景が家庭的で、廊下は広く、トイレ時も自由に行動できるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時のみ位置は決まっているが、それ以外は、テレビを観る時やレクリエーションの時など、気の合う利用者同士と一緒に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身の回りの物は今まで使い慣れた物を使用し、室には自身で書かれ書道や大きな写真付き家系図を作成し飾ったりし、居心地良く過ごせるように工夫している。	居室のベランダから庭園が見え、自然を満喫できる環境がある。個々に使い慣れた物が置かれ、家系図を飾ったりして、一人ひとりの個性を大切に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には名札を付け、トイレや浴室などは大きく名前を書いて分かりやすくしている。		